

# 愛知県がんセンター 中央病院・研究所 概要

平成25年度



# 基本理念

私たちは患者さんの立場にたって、最先端の研究成果と根拠に基づいた最良のがん医療を提供します。

The mission of Aichi Cancer Center is to provide patients suffering from cancer with compassionate care and the best treatment based on evidence and leading-edge cancer research.

## 基本方針

1. 患者さんの権利と尊厳を守る医療を実践します。
2. 根拠に基づいた良質で安全な医療を提供します。
3. 情報を開示し、医療の透明性と信頼性を保ちます。
4. がんの予防・診断・治療の技術革新を目指した研究を推進します。
5. 教育と研修を充実し、がん医療・研究を担う人材を育成します。
6. 愛知県がん診療連携拠点病院として地域と連携し、がん医療の向上に努めます。
7. がん医療の実践、研究開発、啓発を通じて、愛知県のみならず日本さらには国際社会へ貢献します。

## 患者さんの権利と病院からのお願い

愛知県がんセンターは、がん専門施設として、最先端で最良のがん医療をみなさんに提供することを使命としています。

ここに、「患者さんの権利と病院からのお願い」を明らかにし、患者さんと病院職員とがお互いに信頼感を持ち、協力してがんに立ち向かうことを宣言します。

### 患者さんの権利

1. 誰でも良質な医療を平等に受ける権利があります。
2. いかなる状況でも、人格が尊重され、尊厳が保障される権利があります。
3. 十分な説明による理解のもとに、自らが受ける治療に対して意思決定をする権利があります。
4. 自らが受けている医療について、すべてを知る権利があります。
5. すべての個人情報保護される権利があります。
6. 診断や治療方針について、他の医療機関の医師の意見（セカンドオピニオン）を求める権利があります。

### 病院からのお願い

1. 快適な療養環境を維持するため、病院の規則をお守りください。
2. ご自分の病状や健康状態を医療従事者に正確にお伝えください。
3. 他の患者さんに迷惑となるような行為や診療の妨げとなるような行為は行わないでください。
4. 診療費は滞ることなくお支払いください。
5. 病院職員と連携して、医療事故の防止にご協力ください。
6. 将来のがん医療を担う医療従事者の教育・研修にご協力ください。
7. がん医療の発展のため、臨床研究にご協力ください。

# 目 次

目 的 .....	2
経 過 .....	2
設置の根拠 .....	2
施設の概要 .....	3
所在地 土地・建物 中央病院 研究所	
組織と職員定数 .....	8
組織 役職者一覧表 職種別・職員定数一覧表	
管理業務 .....	10
会計予算 がん患者状況 レジデント履修状況等	
主な備品・設備 .....	18
備品 付属施設	
病院業務 .....	19
中央病院の特色等 外来診療経路 患者状況 患者給食実施状況等	
研究業務 .....	27
研究所における部別研究課題 病院における課題別研究課題 共同研究課題等	
類似病院との比較 .....	31
外来診療案内・入院案内 .....	32

# 目 的

がんは昭和56年に死亡原因の1位となり、その後も年々増加している。わが国におけるがんの対策は、諸外国と同様に、生活習慣病対策のなかで最も重要な国民的課題である。

がんの根本的な制圧のためには、その実態を究明して積極的な予防策を講ずるとともに、早期に適切な診断と治療を行わなければならない。これらのがん対策を推進するためには、がんの基礎的研究部門からはじまる幅広い研究活動と、がんに対する高度な診断・治療の実施のほか、専門技術者の養成や診断技術の普及も必要なことである。

このため国は、昭和37年、東京に国立がんセンターを設置したが、これと呼応して愛知県においても、この種の専門施設の少ない東海地方に病院と研究所を併有した愛知県がんセンターを設置し、がん制圧の重要な拠点とすることにした。

# 経 過

昭和36年 1月12日	愛知県がん対策協議会に対し、知事から「悪性新生物の予防及び治療対策」について諮問
昭和36年 6月19日	同協議会から知事に対し「がん対策の拠点となる、がんセンターを早急に設置する必要がある」旨答申があり、がんセンターの設置を決定
昭和39年10月15日	建物竣工
昭和39年12月 1日	業務開始 病床数 333 床（特別病床32、一般病床269、術後回復病床24、ラジウム病床8）
昭和44年 3月31日	病床22床増床（特別病床）
昭和49年 8月31日	検査診断棟増築工事竣工
昭和57年 3月30日	遺伝子組換え実験室完成
昭和58年11月22日	診療管理棟竣工
昭和63年 8月31日	生物工学総合実験棟竣工
平成 3年12月20日	特殊放射線・診療棟竣工
平成 4年 2月29日	病棟竣工
平成 4年 5月18日	新病院棟業務開始 病床数 500 床（特別病床80、一般病床393、特殊病床27）
平成 6年 3月18日	国際医学交流センター・外来棟竣工
平成 6年 5月24日	国際医学交流センター・外来棟業務開始
平成 7年 6月30日	立体駐車場竣工
平成 7年12月25日	植栽工事（環境整備）完成
平成 9年 3月20日	研究所代替施設改修工事竣工
平成12年 3月10日	特定承認保険医療機関 承認
平成14年 1月11日	新研究所棟竣工
平成14年 2月 7日	（名称変更）新研究所棟→研究所棟本館、診療管理棟→研究所棟北館
平成14年 4月 1日	臨床研修病院の指定
平成14年 8月13日	地域がん診療拠点病院の指定
平成16年 4月 1日	地方公営企業法の全部適用
平成16年 9月27日	病院機能評価の認定（Ver.4.0）
平成17年 4月 1日	愛知病院（岡崎市、病床数306床）を統合
平成18年 9月21日	医療法人名古屋放射線診断財団とPET-CT検査診療所整備運営等に関する基本協定書締結
平成19年 1月31日	都道府県がん診療連携拠点病院の指定
平成21年 9月27日	病院機能評価の認定（Ver.6.0）
平成22年 4月 1日	都道府県がん診療連携拠点病院の更新
平成22年10月 1日	尾張診療所(一宮市)開設

# 設置の根拠

設立当初・愛知県がんセンター条例（昭和39年条例第60号）

運用部、病院、研究所の3部門を設置

現 在・愛知県病院事業の設置等に関する条例（昭和41年条例第36号）

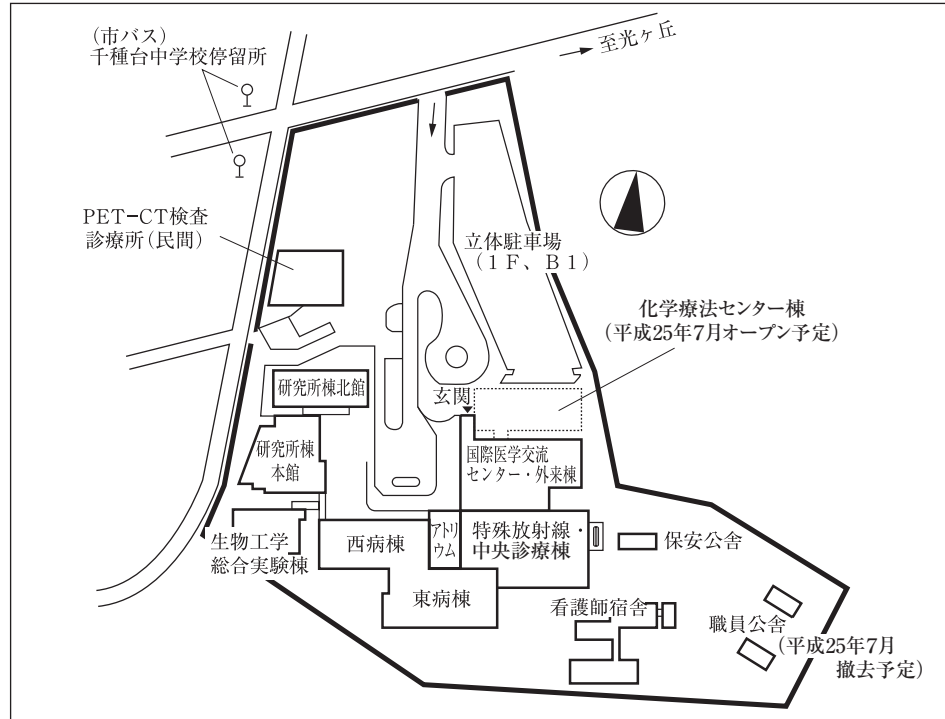
業務の内容

- ア 悪性新生物に関する診断及び治療を行うこと
- イ 悪性新生物に関する予防、診断及び治療についての調査研究を行うこと
- ウ 悪性新生物に関する技術者の研修を行うこと
- エ 悪性新生物に関する調査研究を行う者に施設を利用させること

# 施設の概要

所在地 名古屋市千種区鹿子殿1番1号

(平成25年4月1日現在)



## 土地・建物

(平成25年4月1日現在)

区分	構造・規模	延床面積	
土地		49,788.56 m <sup>2</sup>	
建物	合計	71,935.58 m <sup>2</sup>	
	病棟	鉄骨鉄筋コンクリート造 地下1階 地上9階 搭屋2階	28,662.79 m <sup>2</sup>
	特殊放射線・中央診療棟	鉄骨鉄筋コンクリート造 地下1階 地上5階	12,274.96 m <sup>2</sup>
	国際医学交流センター・外来棟	鉄骨鉄筋コンクリート造 地下1階 地上3階	7,203.43 m <sup>2</sup>
	研究所棟本館	鉄骨鉄筋コンクリート造 地下1階 地上6階	7,112.72 m <sup>2</sup>
	研究所棟北館	鉄筋コンクリート造 地下1階 地上3階 搭屋1階	3,244.43 m <sup>2</sup>
	生物工学総合実験棟	鉄筋コンクリート造 地下1階 地上3階 搭屋1階	2,116.03 m <sup>2</sup>
	看護師宿舎	鉄筋コンクリート造 地上4階 搭屋1階 2棟	3,352.33 m <sup>2</sup>
	保安公舎	鉄筋コンクリート造 地上3階	313.92 m <sup>2</sup>
	職員公舎	鉄筋コンクリート造 地上3階 2棟	712.56 m <sup>2</sup>
	立体駐車場	鉄筋コンクリート造2層建	6,526.47 m <sup>2</sup>
その他	危険物倉庫・ごみ集積場・保管庫等	415.94 m <sup>2</sup>	

(東) 病棟 (西)

		内 容	病床数	階別	内 容	病床数		
		機械室		搭屋	機械室			
		特別病棟 (混合)	25床	9階	特別病棟 (混合)	25床		
		特別病棟 (混合)	30床	8階	一般病棟 (放射線診断・I R科、放射線治療科、泌尿器科)	50床		
		一般病棟 (消化器内科・消化器外科)	50床	7階	一般病棟 (消化器外科・消化器内科)	50床		
		一般病棟 (呼吸器内科、整形外科)	50床	6階	一般病棟 (血液・細胞療法科、薬物療法科)	49床		
特殊放射線・中央診療棟		空調機械室	小線源病棟 (放射線治療科)(4床)	一般病棟 (頭頸部外科部、放射線治療科)(46床)	50床	5階	一般病棟 (婦人科、乳腺科、放射線治療科)	50床
手術部門		I C病棟 血液管理部門	21床	4階	一般病棟 (呼吸器外科、呼吸器内科、薬物療法科)	50床		
臨床検査部門、相談支援室		アイソトープ検査部門 管理部門 (看護部)		3階	管理部門 (総長室、病院長室等)			
放射線診断部門		内視鏡部門 生理検査部門		2階	管理部門 (医局等)			
中央滅菌材料室、供給部門		憩いのフロアー、アトリウム (食堂、売店、理髪店等)		1階	入院受付 管理部門 (運用部等)			
放射線治療部門、電気室		給食部門		地階	中央監視室、熱源機械室			

(病床合計 500床)

国際医学交流センター・外来棟

階 別	内 容
3階	外科系診察室、臨床検査部門 (一部)、外来手術室・処置室等
2階	総合案内、外来受付、予約受付、内科系診察室、外来化学療法センター、 薬剤部門 (薬局受付等)、会計等
1階	国際医学交流センター (メインホール、大会議室、視聴覚室等)
地階	薬剤部門 (無菌製剤室、供給室等)、カルテ、フィルム庫

## 都道府県がん診療連携拠点病院

第3次対がん10か年総合戦略においては、全国各地でも質の高いがん医療を受けることができるがん医療の均てん化が戦略目標に掲げられている。

この目標達成のために国によって整備が進められることになったがん診療連携拠点病院について、当院は、平成19年1月31日付で県内1か所の指定である「都道府県がん診療連携拠点病院」の指定を受け、県内の「地域がん診療拠点病院」及び、愛知県が指定する「愛知県がん診療拠点病院」の医療従事者に対する研修の実施、クリティカルパス（治療計画）の整備など、地域の医療連携体制の構築を通じて支援している。

その他、院内に相談支援室を設け、患者・家族からの相談支援、医療情報の提供を行っている。

## 外来化学療法センター

平成17年12月に開設した外来化学療法センターは30床で毎月延べ1,800件（1日あたり85件）以上の治療を行うようになり、件数はさらに増加傾向にある。平成18年9月から点滴を主治医制より当番医制へと変更し安全性を確保しながら効率のよい運営を行いつつ、日本のがん治療のリーディングセンターとして新たな外来化学療法センターが、本年7月1日に稼働開始の予定である。



## 先進医療

先進医療とは、その有効性及び安全性を確保する観点から、医療技術ごとに一定の施設基準を設置し、施設基準に該当する保険医療機関は届出により保険診療との併用ができることとした制度である。

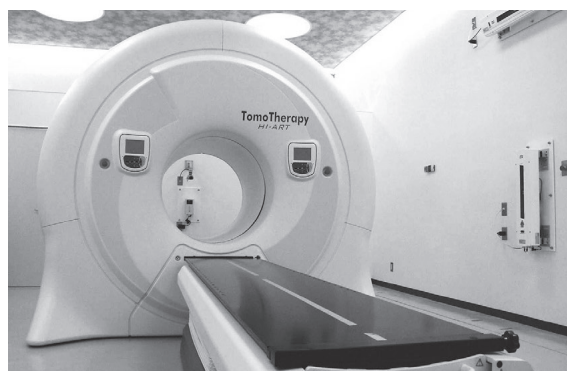
愛知県がんセンター中央病院では、①「パクリタキセル腹腔内投与及び静脈内投与並びにS-1内服併用療法 腹膜播種又は進行性胃がん（腹水細胞診又は腹腔洗浄細胞診により遊離がん細胞を認めるものに限る。）」、②「パクリタキセル静脈内投与（一週間に一回投与するものに限る。）及びカルボプラチン腹腔内投与（三週間に一回投与するものに限る。）の併用療法 上皮性卵巣がん、卵管がん又は原発性腹膜がん」、③「パクリタキセル腹腔内反復投与療法 胃切除後の進行性胃がん（腹膜に転移しているもの、腹腔洗浄細胞診が陽性であるもの又はステージⅡ若しくはⅢであって肉眼型分類が3型（長径が八センチメートル以上のものに限る。若しくは4型であるものに限る。）」、④「術後のホルモン療法及びS-1内服投与の併用療法 原発性乳がん（エストロゲン受容体が陽性であって、HER2が陰性のものに限る。）」の4件の医療技術について提供している。

## 治験支援室・臨床試験室

当院は、がん専門病院としては全国トップクラスの治験の実績を持っている。臨床試験部治験支援室では、製薬企業からの依頼を受けて新薬開発のための治験や製造販売後臨床試験、また医師が中心となって行う医師主導治験の支援を行っている。また、同部臨床試験室では、治験以外のさまざまな臨床試験の支援を行っている。なお、両室とも平成25年度から正式組織に位置づけた。

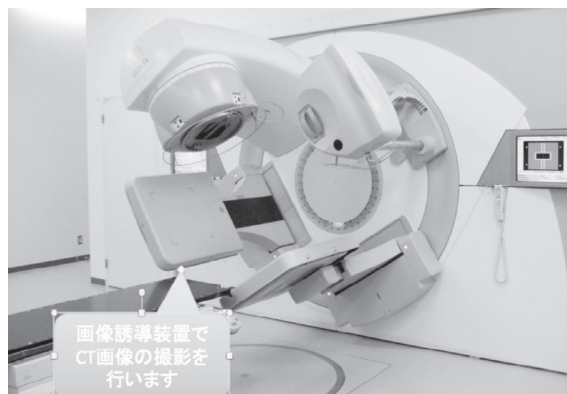
## トモセラピー（Tomotherapy）

平成18年6月から稼働の放射線治療装置Tomotherapyは強度変調放射線治療（IMRT）専用機として開発された。IMRTとは小さな鉛ブロックの開閉で照射野内の線量に強弱をつけ、かつ全周方向から照射・合成することで高精度な放射線分布を作る方法である。本装置は小型の放射線発生装置（ライナック）を内蔵し、ヘリカルCT方式で治療ベッドを移動しながらスライス状ビームで治療する



## シナジー

平成24年7月に導入した新治療機シナジー（写真下）はトモセラピーのように治療直前に正確なCT画像を撮影して位置合わせを行い、全周からビームをうちながら高精度な放射線治療（IMRT）を行います。トモセラピーで年間150人の治療が限度だったので、年々需要の増加する前立腺癌のIMRT治療件数を数十件程度増加することを予定しています。



## ネットワーク接続施設

国立がんセンター中央病院を核として、国立7病院と、愛知県がんセンターを始め全国の自治体設立15施設の計22施設をネットワークで結び、各施設間での臨床情報、研究情報及び学術情報の共有化を図るとともに、相互の情報交換によりがん診療や治療技術、研究の向上を図る目的で運営されている。

なお、地方自治体設立のがんセンターとしては、愛知県がんセンターが全国にさきがけてネットワークの一員となっている。

研究所棟本館

	フロア	南	北	
生物工学総合実験棟	6階	電気室	空調機械スペース	研究所棟北館
	5階	発がん制御研究部	疫学・予防部/中央実験室	
空調機械スペース	4階	腫瘍免疫学部	腫瘍ウイルス学部	空調機械スペース
遺伝子実験室 RI実験室	3階	腫瘍病理学部	分子病態学部	研究所長室等、疫学・予防部
管理室 RI実験室	2階	遺伝子医療研究部	分子腫瘍学部	図書室、共同機器室等
	1階	共同機器室/管理室	臨床研究室	運用部電算機室 その他
空調機械室 電気室	地階	熱源機械室	実験動物飼育実験室	電気室 その他

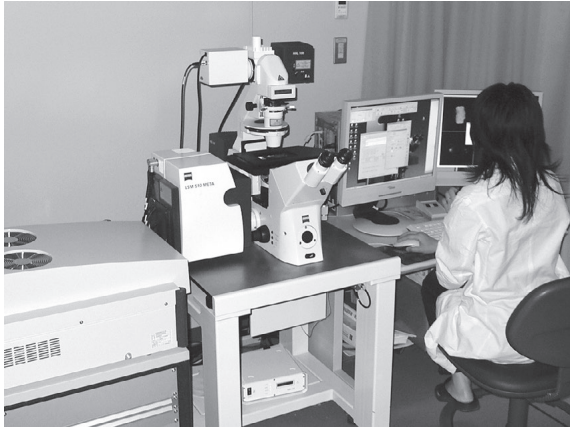
平成14年1月に竣工した研究所棟本館は、地下1階地上5階（一部6階）、総床面積7,113㎡である。地下1階には通常動物舎および発生工学動物飼育実験室が設置され、病原菌感染のない環境下で免疫能の低い特殊なマウスを用いた発がん・制がんの実験や、遺伝子改変動物の飼育と遺伝子機能解明のための実験が行われている。1階には管理室や共同機器室が置かれ、2階から5階には8部門の実験室と、各フロア共同のRI実験室材料保管室が設置されている。

研究所棟北館は地下1階地上3階、総床面積3,244㎡で、所長室等の管理部門、疫学・予防部のほか図書室、電算機室が設置されている。

生物工学総合実験棟は、地下1階地上3階、総床面積2,116㎡の共同利用特殊実験棟として、昭和63年に完成した。2階と3階の大部分はRI管理区域に指定され、放射性同位元素を使うがん遺伝子の研究などが展開されている。







共焦点レーザー顕微鏡

### 共焦点レーザー顕微鏡

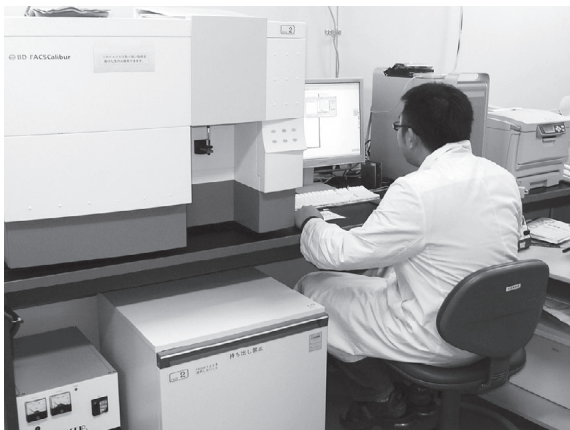
レーザー光を対物レンズに通して試料に当てて蛍光を発生させ、焦点での蛍光だけを検出できる高性能蛍光顕微鏡である。従来の蛍光顕微鏡に比べて、はるかに高い分解能の断層像が観察でき、連続した断層画像から三次元画像の構築も可能となる。

### 質量分析装置

分子量が数百から数万までの分子をパルス・レーザー光でイオン化（MALDI 方式）させ、その飛行時間から質量を精密に測定する装置である。本装置を液体クロマトグラフィーと連結して解析に用いることにより、タンパク質・糖鎖・脂質等の網羅的で迅速な精密分析が高感度で可能になる。



質量分析装置



フローサイトメーター

### フローサイトメーター（3台）

細胞が作っているタンパク質の種類と量を蛍光標識した抗体などを用いて鋭敏に検出する機器。がん細胞、あるいはがん細胞を攻撃する免疫細胞の特性などを明らかにする研究を進めている。

### 細胞調整施設

細胞治療や遺伝子治療といった、患者さんの細胞を用いた治療の研究を安全で高品質な状態で行うことができる施設。

病院と連携して研究を進めている。



細胞調整施設

# 組織と職員定数

組 織 (平成25年4月1日現在)



# 役職者一覧表

(平成25年4月1日現在)

役職名			氏名	備考	役職名			氏名	備考		
総	長		木下平		中 央 病 院 研 究 所	泌尿器科部長		林宣男			
	運用部	運用部長	糟谷寛和			婦人科部長		中西透			
		経営戦略室長	辻幹司			麻酔科部長		仲田純也			
		管理課長	皆藤寿			集中治療部長		波多野潔	循環器科部長(兼)		
	中 央 病 院	院長		篠田雅幸			放射線診断・IVR部長		稲葉吉隆		
		副院長				丹羽康正		放射線治療部長		古平毅	
						長谷川泰久		外来部長		堀尾芳嗣	
						岩田広治		循環器科部長		波多野潔	
						高木仁美		緩和ケア部長		小森康永	
		消化器内科部長		山雄健次			看護部長		高木仁美	副院長(兼)	
		内視鏡部長		丹羽康正		副院長(兼)	薬剤部長		水谷旭良		
		呼吸器内科部長		樋田豊明			栄養管理部長		丹羽康正	副院長(兼)	
		血液・細胞療法部長		木下朝博			医療安全管理部長		長谷川泰久	副院長(兼)	
		薬物療法部長		室圭			医療情報管理部長		岩田広治	副院長(兼)	
		臨床検査部長		谷田部恭		遺伝子病理診断部長(兼)	研究所長		木下平	事務取扱	
		遺伝子病理診断部長		谷田部恭			副所長		瀬戸加大		
		輸血部長		木下朝博		血液・細胞療法部長(兼)	疫学・予防部長		田中英夫		
	頭頸部外科部長		長谷川泰久	副院長(兼)		腫瘍病理学部長		近藤英作			
	形成外科部長		兵藤伊久夫			分子腫瘍学部長		関戸好孝			
	呼吸器外科部長		坂尾幸則			遺伝子医療研究部長		瀬戸加大	副所長(兼)		
乳腺科部長		岩田広治	副院長(兼)	腫瘍免疫学部長		葛島清隆					
消化器外科部長		清水泰博		腫瘍ウイルス学部長		鶴見達也					
整形外科部長		杉浦英志		分子病態学部長		青木正博					
				発がん制御研究部長		稲垣昌樹					

# 職種別・職員定員一覧表

(平成25年4月1日現在)

職種別	部門別	総数	運用部	病院	研究所
総	数	666	27	588	51
事	務	29	26	3	
医	師	116	1	85	30
理	学 士 ・ 研 究 員	12			12
診	療 放 射 線 技 師	24		24	
理	学 療 法 士	2		2	
薬	劑 師	23		23	
臨	床 検 査 技 師	28		28	
臨	床 工 学 技 士	2		2	
看	護 師	392		392	
看	護 助 手	4		4	
栄	養 士	3		3	
そ	の 他 給 食 関 係 職 員	17		17	
臨	床 試 験 コーディネーター	5		5	
研	究 補 助	9			9

# 管理業務

## 会計予算

(収益的收入支出)

(単位 千円)

(款) 項	目	金 額	
		24 年 度 当 初 予 算	25 年 度 当 初 予 算
( 事 業 収 益 )		16,605,178	17,994,110
医 業 収 益		14,837,708	16,282,849
	入 院 収 益	8,210,353	8,672,400
	外 来 収 益	4,476,150	5,457,060
	一般会計負担金	1,098,694	1,096,787
	その他医業収益	1,052,511	1,056,602
医 業 外 収 益		1,767,470	1,711,261
	受取利息配当金	201	290
	一般会計負担金	1,435,786	1,357,139
	一般会計補助金	0	0
	国庫負担金	24,333	16,488
	その他医業外収益	307,150	337,344
特 別 利 益	特 別 利 益	0	0
( 事 業 費 )		16,081,180	17,336,398
医 業 費 用		15,872,238	17,143,930
	給 与 費	7,433,263	7,519,787
	材 料 費	5,104,911	5,943,822
	経 費	2,102,818	2,396,512
	減 価 償 却 費	727,933	748,255
	資 産 減 耗 費	22,837	48,299
	研 究 研 修 費	480,476	487,255
医 業 外 費 用		203,942	187,468
	支払利息・企債諸費	121,149	116,684
	繰延勘定償却	33,743	35,875
	雑 損 失	2	2
	消 費 税 及 び 地 方 消 費 税	49,048	34,907
特 別 損 失		0	0
予 備 費	予 備 費	5,000	5,000
差 引 損 益		523,998	657,712

## (資本的収入支出)

(単位 千円)

(款) 項	目	金 額	
		24 年 度 当 初 予 算	25 年 度 当 初 予 算
(資本的収入)		1,599,427	995,891
企 業 債	企 業 債	1,127,000	497,000
国庫支出金	国庫補助金	0	0
他会計出資金	一般会計出資金	0	0
他会計負担金	一般会計負担金	456,427	445,734
雑 収 入	雑 収 入	16,000	53,157
(資本的支出)		2,119,699	1,673,541
建設改良費		908,582	157,190
	建 設 費	771,008	33,518
	改 良 費	137,574	123,672
資産購入費		440,993	655,559
	医療器械購入費	440,893	655,459
	備品購入費	100	100
企業債償還金	企業債償還金	770,124	860,792
収 支		△ 520,272	△ 677,650

(注) 資本的収入額が資本的支出額に不足する額は過年度分の留保資金で充当する。

## 経営状況

(単位 千円)

区 分		20	21	22	23	24
収 入		14,223,220	14,899,595	16,184,062	16,429,887	16,666,489
内 訳	入 院 収 益	6,666,217	7,138,036	7,805,576	7,700,007	8,163,112
	外 来 収 益	3,840,227	4,205,727	4,130,729	4,427,626	4,656,661
	一般会計負担金	2,679,734	2,522,624	2,701,066	2,761,264	2,533,100
	そ の 他	1,037,042	1,033,208	1,546,691	1,540,990	1,313,616
支 出		14,010,290	14,348,315	15,114,357	15,420,224	15,884,759
内 訳	給 与 費	6,359,683	6,570,234	7,131,720	7,434,894	7,546,630
	そ の 他	7,650,607	7,778,081	7,982,637	7,985,330	8,338,129
差 引 損 益		212,930	551,280	1,069,705	1,009,663	781,730
実 質 損 益		△ 2,466,804	△ 1,971,344	△ 1,631,361	△ 1,751,601	△ 1,751,370

(注1) 実質損益は一般会計負担金の投入がなかったと仮定した場合の損益をいう。

(注2) 税抜き

# がん患者状況（院内登録）

## 年次別・部位別がん患者数(男女計) 1964-2011

がんの部位 区分 (ICD10)	全部位 (C00~D09)	食道がん (C15)	胃がん (C16)	結腸がん (C18)	直腸がん (C19~C21)	肝臓がん (C22)	頭頸部のがん (C00~C14 C30~C32)	肺がん (C33, C34)	乳房がん (C50)	子宮がん (C53~C55 C58)	泌尿器のがん (C60~C68)	甲状腺がん (C73)	悪性リンパ腫 (C82, C84, C85, C96)	白血病 (C91~C95)	その他のがん
昭和39年(1964)	65	2	18	0	2	0	11	5	10	10	2	0	0	0	5
昭和40年(1965)	1,437	43	506	20	58	16	109	99	167	245	19	13	4	19	119
昭和41年(1966)	1,606	51	549	28	68	20	145	101	207	257	19	19	6	17	119
昭和42年(1967)	1,525	40	525	32	62	25	136	114	156	263	24	13	4	12	119
昭和43年(1968)	1,485	36	448	25	49	23	125	115	191	291	23	21	9	20	109
昭和44年(1969)	1,571	42	488	20	68	21	131	120	203	286	19	22	9	10	132
昭和45年(1970)	1,567	48	437	36	62	27	124	124	222	287	21	20	7	23	129
昭和46年(1971)	1,639	45	438	32	59	37	149	125	228	303	21	30	10	12	150
昭和47年(1972)	1,659	46	427	40	70	30	155	152	242	297	20	19	6	17	138
昭和48年(1973)	1,497	41	390	32	73	28	116	132	191	284	12	26	14	13	145
昭和49年(1974)	1,364	54	348	36	61	9	113	121	224	222	14	25	6	9	122
昭和50年(1975)	1,427	38	375	42	65	13	100	133	214	243	9	28	5	19	143
昭和51年(1976)	1,326	39	352	32	92	25	66	119	202	236	12	18	11	2	120
昭和52年(1977)	1,286	37	327	49	85	14	62	111	201	215	8	20	7	15	135
昭和53年(1978)	1,391	53	345	42	74	15	69	133	231	212	15	24	8	9	161
昭和54年(1979)	1,358	36	336	53	49	28	82	132	241	197	12	21	34	9	128
昭和55年(1980)	1,377	45	334	55	71	23	68	136	289	164	15	26	31	15	105
昭和56年(1981)	1,363	43	326	48	73	32	48	143	302	162	16	22	29	11	108
昭和57年(1982)	1,332	34	295	49	69	26	68	151	316	170	9	14	27	13	91
昭和58年(1983)	1,405	49	297	76	85	25	72	154	300	161	12	19	34	13	108
昭和59年(1984)	1,362	41	306	72	67	27	63	139	331	134	6	15	29	16	116
昭和60年(1985)	1,482	35	297	77	77	37	86	157	364	140	12	19	50	3	128
昭和61年(1986)	1,396	37	311	54	74	43	67	134	326	149	8	22	52	6	113
昭和62年(1987)	1,384	34	268	68	74	34	74	156	337	139	14	20	38	10	118
昭和63年(1988)	1,421	39	275	105	57	28	81	167	348	147	6	18	40	11	99
平成元年(1989)	1,261	32	272	64	54	32	86	151	269	141	7	28	32	10	83
平成2年(1990)	1,280	39	246	82	72	45	96	125	243	151	8	30	39	7	97
平成3年(1991)	1,262	39	217	99	68	39	64	134	276	168	6	22	34	9	87
平成4年(1992)	1,344	46	224	84	64	32	94	169	275	175	8	38	30	6	99
平成5年(1993)	1,464	48	261	125	74	62	88	184	300	143	10	26	39	8	96
平成6年(1994)	1,469	62	264	100	84	42	94	180	298	152	24	23	45	3	98
平成7年(1995)	1,463	46	249	111	74	49	113	178	287	106	57	24	36	1	132
平成8年(1996)	1,462	51	202	96	66	49	124	200	290	106	74	29	32	7	136
平成9年(1997)	1,598	43	235	110	67	60	144	219	307	129	61	23	24	9	167
平成10年(1998)	1,684	56	250	120	68	67	134	246	296	144	68	30	31	11	163
平成11年(1999)	1,810	66	245	101	84	64	141	277	364	116	73	30	29	11	209
平成12年(2000)	1,812	65	252	113	63	55	168	275	309	136	74	27	38	13	224
平成13年(2001)	1,922	114	242	122	94	58	158	291	326	153	71	44	38	10	201
平成14年(2002)	2,049	106	257	134	110	61	198	314	314	141	88	44	40	10	232
平成15年(2003)	2,085	113	242	150	110	54	201	305	293	144	116	43	46	7	261
平成16年(2004)	2,162	130	270	131	108	61	203	297	295	174	115	52	41	7	278
平成17年(2005)	2,223	139	286	147	147	73	206	317	296	143	102	36	42	5	284
平成18年(2006)	2,192	146	304	144	155	55	193	307	285	117	156	43	53	5	229
平成19年(2007)	2,359	152	295	154	152	61	178	332	329	152	138	50	57	5	304
平成20年(2008)	2,079	103	283	135	130	28	124	262	339	148	132	46	44	3	302
平成21年(2009)	2,709	150	292	159	157	68	241	367	412	224	218	47	33	0	341
平成22年(2010)	2,946	178	324	187	162	94	225	407	450	220	224	50	16	0	409
平成23年(2011)	2,352	137	242	133	120	47	212	327	432	172	199	50	75	2	204
合計	77,712	3,069	14,972	3,924	3,927	1,862	5,805	9,037	13,328	8,669	2,377	1,329	1,364	453	7,596

※平成8年までは、ICD9による集計

## 年次別・部位別がん患者割合(%) (男女計) 1964-2011

がんの部位 区分 (ICD10)	全部位 (C00~D09)	食道 がん (C15)	胃がん (C16)	結腸 がん (C18)	直腸 がん (C19~C21)	肝臓 がん (C22)	頭頸部 のがん (C00~C14 C30~C32)	肺がん (C33, C34)	乳房 がん (C50)	子宮 がん (C53~C55 C58)	泌尿器 のがん (C60~C68)	甲状腺 がん (C73)	悪性リ ンパ腫 (C82, C84, C85, C96)	白血病 (C91~C95)	その他 のがん
昭和39年 (1964)	100.0	3.1	27.7	0.0	3.1	0.0	16.9	7.7	15.4	15.4	3.1	0.0	0.0	0.0	7.7
昭和40年 (1965)	100.0	3.0	35.2	1.4	4.0	1.1	7.6	6.9	11.6	17.1	1.3	0.9	0.3	1.3	8.3
昭和41年 (1966)	100.0	3.2	34.2	1.7	4.2	1.2	9.0	6.3	12.9	16.0	1.2	1.2	0.4	1.1	7.4
昭和42年 (1967)	100.0	2.6	34.4	2.1	4.1	1.6	8.9	7.5	10.2	17.2	1.6	0.9	0.3	0.8	7.8
昭和43年 (1968)	100.0	2.4	30.2	1.7	3.3	1.6	8.4	7.7	12.9	19.6	1.6	1.4	0.6	1.3	7.3
昭和44年 (1969)	100.0	2.7	31.1	1.3	4.3	1.3	8.4	7.6	12.9	18.2	1.2	1.4	0.6	0.6	8.4
昭和45年 (1970)	100.0	3.1	27.9	2.3	4.0	1.7	7.9	7.9	14.2	18.3	1.3	1.3	0.4	1.5	8.2
昭和46年 (1971)	100.0	2.7	26.7	2.0	3.6	2.3	9.1	7.6	13.9	18.5	1.3	1.8	0.6	0.7	9.2
昭和47年 (1972)	100.0	2.8	25.7	2.4	4.2	1.8	9.3	9.2	14.6	17.9	1.2	1.2	0.4	1.0	8.3
昭和48年 (1973)	100.0	2.7	26.1	2.1	4.9	1.9	7.7	8.8	12.8	19.0	0.8	1.7	0.9	0.9	9.7
昭和49年 (1974)	100.0	4.0	25.5	2.6	4.5	0.7	8.3	8.9	16.4	16.3	1.0	1.8	0.4	0.7	8.9
昭和50年 (1975)	100.0	2.7	26.3	2.9	4.6	0.9	7.0	9.3	15.0	17.0	0.6	2.0	0.4	1.3	10.0
昭和51年 (1976)	100.0	2.9	26.6	2.4	6.9	1.9	5.0	9.0	15.2	17.8	0.9	1.4	0.8	0.2	9.0
昭和52年 (1977)	100.0	2.9	25.4	3.8	6.6	1.1	4.8	8.6	15.6	16.7	0.6	1.6	0.5	1.2	10.5
昭和53年 (1978)	100.0	3.8	24.8	3.0	5.3	1.1	5.0	9.6	16.6	15.2	1.1	1.7	0.6	0.6	11.6
昭和54年 (1979)	100.0	2.7	24.7	3.9	3.6	2.1	6.0	9.7	17.8	14.5	0.9	1.5	2.5	0.7	9.4
昭和55年 (1980)	100.0	3.3	24.3	4.0	5.1	1.7	4.9	9.9	21.0	11.9	1.1	1.9	2.2	1.1	7.6
昭和56年 (1981)	100.0	3.2	23.9	3.5	5.4	2.3	3.5	10.5	22.2	11.9	1.2	1.6	2.1	0.8	7.9
昭和57年 (1982)	100.0	2.6	22.1	3.7	5.2	2.0	5.1	11.3	23.7	12.8	0.7	1.0	2.0	1.0	6.8
昭和58年 (1983)	100.0	3.5	21.1	5.4	6.0	1.8	5.1	11.0	21.4	11.5	0.9	1.3	2.4	0.9	7.7
昭和59年 (1984)	100.0	3.0	22.5	5.3	4.9	2.0	4.6	10.2	24.3	9.8	0.5	1.1	2.1	1.2	8.5
昭和60年 (1985)	100.0	2.4	20.0	5.2	5.2	2.5	5.8	10.6	24.6	9.4	0.8	1.3	3.4	0.2	8.6
昭和61年 (1986)	100.0	2.6	22.3	3.9	5.3	3.1	4.8	9.6	23.3	10.7	0.6	1.6	3.7	0.4	8.1
昭和62年 (1987)	100.0	2.5	19.4	4.9	5.4	2.5	5.4	11.3	24.3	10.0	1.0	1.4	2.7	0.7	8.5
昭和63年 (1988)	100.0	2.7	19.4	7.4	4.0	2.0	5.7	11.7	24.5	10.3	0.4	1.3	2.8	0.8	7.0
平成元年 (1989)	100.0	2.5	21.6	5.1	4.3	2.5	6.8	12.0	21.3	11.2	0.6	2.2	2.5	0.8	6.6
平成2年 (1990)	100.0	3.1	19.2	6.4	5.6	3.5	7.5	9.8	19.0	11.8	0.6	2.3	3.1	0.5	7.6
平成3年 (1991)	100.0	3.1	17.2	7.8	5.4	3.1	5.1	10.6	21.9	13.3	0.5	1.7	2.7	0.7	6.9
平成4年 (1992)	100.0	3.4	16.7	6.2	4.8	2.4	7.0	12.6	20.5	13.0	0.6	2.8	2.2	0.4	7.4
平成5年 (1993)	100.0	3.3	17.8	8.5	5.0	4.2	6.0	12.6	20.5	9.8	0.7	1.8	2.7	0.5	6.6
平成6年 (1994)	100.0	4.2	18.0	6.8	5.7	2.9	6.4	12.2	20.3	10.3	1.6	1.6	3.1	0.2	6.7
平成7年 (1995)	100.0	3.1	17.0	7.6	5.1	3.4	7.7	12.2	19.6	7.2	3.9	1.6	2.5	0.1	9.0
平成8年 (1996)	100.0	3.5	13.8	6.6	4.5	3.3	8.5	13.7	19.8	7.2	5.1	2.0	2.2	0.5	9.3
平成9年 (1997)	100.0	2.7	14.7	6.9	4.2	3.7	9.0	13.7	19.2	8.1	3.8	1.4	1.5	0.6	10.5
平成10年 (1998)	100.0	3.3	14.8	7.1	4.0	4.0	8.0	14.6	17.6	8.6	4.0	1.8	1.8	0.7	9.7
平成11年 (1999)	100.0	3.7	13.5	5.6	4.6	3.5	7.8	15.3	20.1	6.4	4.0	1.7	1.6	0.6	11.6
平成12年 (2000)	100.0	3.6	13.9	6.2	3.5	3.0	9.3	15.2	17.0	7.5	4.1	1.5	2.1	0.7	12.4
平成13年 (2001)	100.0	5.9	12.6	6.3	4.9	3.0	8.2	15.1	17.0	8.0	3.7	2.3	2.0	0.5	10.5
平成14年 (2002)	100.0	5.2	12.6	6.5	5.4	3.0	9.7	15.3	15.3	6.9	4.3	2.1	2.0	0.5	11.3
平成15年 (2003)	100.0	5.4	11.5	7.2	5.3	2.6	9.6	14.6	14.1	6.9	5.6	2.1	2.2	0.3	12.5
平成16年 (2004)	100.0	6.0	12.5	6.1	5.0	2.8	9.4	13.7	13.6	8.1	5.3	2.4	1.9	0.3	12.9
平成17年 (2005)	100.0	6.3	12.9	6.6	6.6	3.3	9.3	14.3	13.3	6.4	4.6	1.6	1.9	0.2	12.8
平成18年 (2006)	100.0	6.7	13.9	6.6	7.1	2.5	8.8	14.0	13.0	5.3	7.1	2.0	2.4	0.2	10.4
平成19年 (2007)	100.0	6.4	12.5	6.5	6.4	2.6	7.5	14.1	13.9	6.4	5.8	2.1	2.4	0.2	12.9
平成20年 (2008)	100.0	5.0	13.6	6.5	6.3	1.3	6.0	12.6	16.3	7.1	6.4	2.2	2.3	0.1	14.5
平成21年 (2009)	100.0	5.5	10.8	5.9	5.8	2.5	8.9	13.5	15.2	8.3	8.1	1.7	1.2	0.0	12.6
平成22年 (2010)	100.0	6.0	11.0	6.3	5.5	3.2	7.6	13.8	15.3	7.5	7.6	1.7	0.6	0.0	13.9
平成23年 (2011)	100.0	5.8	10.3	5.7	5.1	2.0	9.0	13.9	18.4	7.3	8.5	2.1	3.2	0.1	8.7
合 計	100.0	3.9	19.3	5.0	5.0	2.4	7.5	11.6	17.1	11.2	3.1	1.7	1.8	0.6	9.8

※平成8年までは、ICD9による集計

## 登録(診断)年次別がん患者の生存数(男女計) 1964-2010

登録(診断)年	症例数	経過年数					
		1年経過	2年経過	3年経過	4年経過	5年経過	10年経過
昭和39年(1964)	65	38	33	31	26	23	15
昭和40年(1965)	1,437	801	637	572	541	508	414
昭和41年(1966)	1,606	965	764	673	640	613	507
昭和42年(1967)	1,525	915	708	619	576	551	443
昭和43年(1968)	1,485	940	746	662	617	582	472
昭和44年(1969)	1,571	981	788	697	630	593	502
昭和45年(1970)	1,567	1,019	803	724	671	629	536
昭和46年(1971)	1,639	1,049	850	768	701	642	535
昭和47年(1972)	1,659	1,104	907	820	753	713	593
昭和48年(1973)	1,497	1,010	844	748	707	667	561
昭和49年(1974)	1,364	948	769	684	638	597	497
昭和50年(1975)	1,427	963	776	704	659	634	553
昭和51年(1976)	1,326	924	755	673	636	602	503
昭和52年(1977)	1,286	908	736	677	630	599	521
昭和53年(1978)	1,391	979	811	742	689	654	550
昭和54年(1979)	1,358	985	822	749	701	669	574
昭和55年(1980)	1,377	1,005	843	775	720	684	582
昭和56年(1981)	1,363	1,016	856	775	737	692	582
昭和57年(1982)	1,332	986	845	763	726	698	564
昭和58年(1983)	1,405	1,048	882	798	734	700	593
昭和59年(1984)	1,362	1,035	873	792	741	709	602
昭和60年(1985)	1,482	1,177	1,007	905	841	810	696
昭和61年(1986)	1,396	1,094	946	857	808	771	648
昭和62年(1987)	1,384	1,100	948	862	787	749	631
昭和63年(1988)	1,421	1,140	991	904	856	829	712
平成元年(1989)	1,261	985	861	800	766	739	624
平成2年(1990)	1,280	1,041	898	839	796	761	661
平成3年(1991)	1,262	1,049	917	846	799	760	661
平成4年(1992)	1,344	1,099	955	887	849	815	698
平成5年(1993)	1,464	1,193	1,037	941	894	858	726
平成6年(1994)	1,469	1,206	1,075	993	930	894	767
平成7年(1995)	1,463	1,190	1,032	935	878	850	718
平成8年(1996)	1,462	1,201	1,054	947	907	859	729
平成9年(1997)	1,598	1,336	1,146	1,041	980	940	750
平成10年(1998)	1,684	1,367	1,198	1,096	1,031	980	768
平成11年(1999)	1,810	1,470	1,271	1,163	1,099	1,056	976
平成12年(2000)	1,812	1,492	1,294	1,195	1,118	1,054	969
平成13年(2001)	1,922	1,557	1,372	1,259	1,176	1,114	997
平成14年(2002)	2,049	1,682	1,447	1,299	1,222	1,181	1,027
平成15年(2003)	2,085	1,719	1,485	1,375	1,310	1,278	
平成16年(2004)	2,162	1,830	1,570	1,440	1,434	1,357	
平成17年(2005)	2,223	1,849	1,719	1,619	1,613	1,507	
平成18年(2006)	2,192	2,070	2,024	1,839	1,722	1,617	
平成19年(2007)	2,359	2,027	1,941	1,836	1,690	1,637	
平成20年(2008)	2,356	2,010	1,872	1,711	1,687		
平成21年(2009)	2,752	2,348	2,051	2,028			
平成22年(2010)	2,949	2,756	2,385				



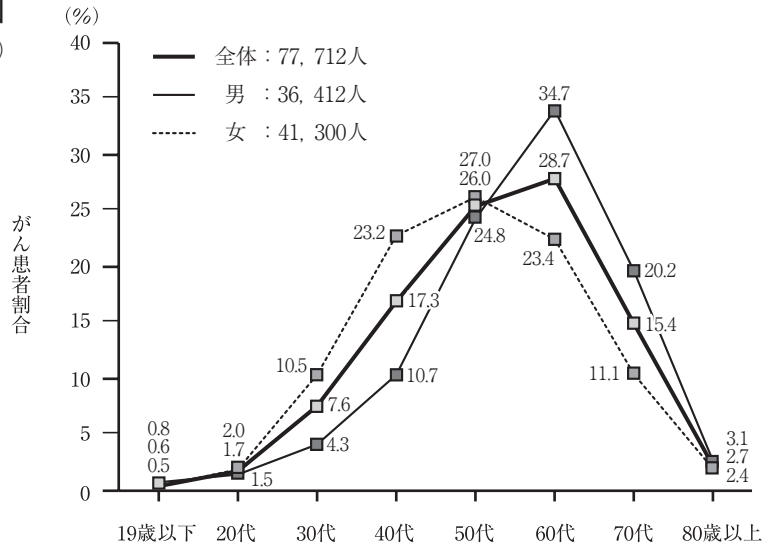
登録(診断)年次別がん患者の実測生存率※ (%) (男女計) 1964-2010

※Kaplan-Meier法による

登録(診断)年	経過年数					
	1年経過	2年経過	3年経過	4年経過	5年経過	10年経過
昭和39年(1964)	58.5	50.8	47.7	40.0	35.4	23.1
昭和40年(1965)	55.7	44.3	39.8	37.6	35.4	28.8
昭和41年(1966)	60.1	47.6	41.9	39.9	38.2	31.6
昭和42年(1967)	60.0	46.4	40.6	37.8	36.1	29.0
昭和43年(1968)	63.3	50.2	44.6	41.5	39.2	31.8
昭和44年(1969)	62.4	50.2	44.4	40.1	37.7	32.0
昭和45年(1970)	65.0	51.2	46.2	42.8	40.1	34.2
昭和46年(1971)	64.0	51.9	46.9	42.8	39.2	32.6
昭和47年(1972)	66.5	54.7	49.4	45.4	43.0	35.7
昭和48年(1973)	67.5	56.4	50.0	47.2	44.6	37.5
昭和49年(1974)	69.5	56.4	50.1	46.8	43.8	36.4
昭和50年(1975)	67.5	54.4	49.3	46.2	44.4	38.8
昭和51年(1976)	69.7	56.9	50.8	48.0	45.4	37.9
昭和52年(1977)	70.6	57.2	52.6	49.0	46.6	40.5
昭和53年(1978)	70.4	58.3	53.3	49.5	47.0	39.5
昭和54年(1979)	72.5	60.5	55.2	51.6	49.3	42.3
昭和55年(1980)	73.0	61.2	56.3	52.3	49.7	42.3
昭和56年(1981)	74.5	62.8	56.9	54.1	50.8	42.7
昭和57年(1982)	74.0	63.4	57.3	54.5	52.4	42.3
昭和58年(1983)	74.6	62.8	56.8	52.2	49.8	42.2
昭和59年(1984)	76.0	64.1	58.1	54.4	52.1	44.2
昭和60年(1985)	79.4	67.9	61.1	56.7	54.7	47.0
昭和61年(1986)	78.4	67.8	61.4	57.9	55.2	46.4
昭和62年(1987)	79.5	68.5	62.3	56.9	54.1	45.6
昭和63年(1988)	80.2	69.7	63.6	60.2	58.3	50.1
平成元年(1989)	78.1	68.3	63.4	60.7	58.6	49.5
平成2年(1990)	81.3	70.2	65.5	62.2	59.5	51.6
平成3年(1991)	83.1	72.7	67.0	63.3	60.2	52.4
平成4年(1992)	81.8	71.1	66.0	63.2	60.6	51.9
平成5年(1993)	81.5	70.8	64.3	61.1	58.6	49.6
平成6年(1994)	82.1	73.2	67.6	63.3	60.9	52.2
平成7年(1995)	81.3	70.5	63.9	60.0	58.1	49.1
平成8年(1996)	82.1	72.1	64.8	62.0	58.8	49.9
平成9年(1997)	83.6	71.7	65.1	61.3	58.8	46.9
平成10年(1998)	81.2	71.1	65.1	61.2	58.2	45.6
平成11年(1999)	81.2	70.2	64.3	60.7	58.3	53.9
平成12年(2000)	82.3	71.4	65.9	61.7	58.2	53.5
平成13年(2001)	81.0	71.4	65.5	61.2	58.0	51.9
平成14年(2002)	82.1	70.6	63.4	59.6	57.6	50.1
平成15年(2003)	82.4	71.2	65.9	62.8	61.3	
平成16年(2004)	84.6	72.6	66.6	66.3	62.8	
平成17年(2005)	83.2	77.3	72.8	72.6	67.8	
平成18年(2006)	94.4	92.3	83.9	78.6	73.8	
平成19年(2007)	85.9	82.3	77.8	71.6	69.4	
平成20年(2008)	85.3	79.5	72.6	71.6		
平成21年(2009)	85.3	74.5	73.7			
平成22年(2010)	93.5	80.9				

## がん患者 年齢構成図

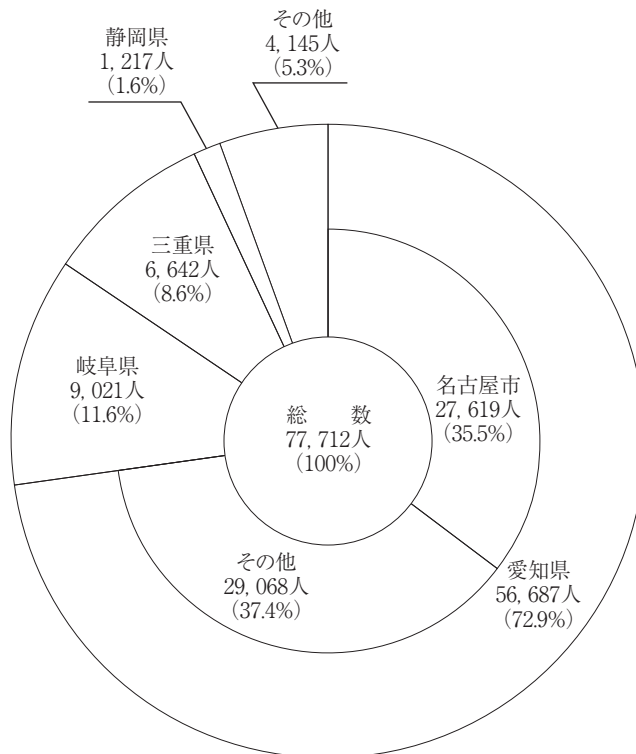
(昭和39年12月～平成23年12月)



		19歳以下	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80歳以上	合計
男	患者数	276	529	1,564	3,887	9,022	12,646	7,344	1,144	36,412
	%	0.8	1.5	4.3	10.7	24.8	34.7	20.2	3.1	100.0
女	患者数	211	822	4,324	9,563	11,147	9,661	4,599	973	41,300
	%	0.5	2.0	10.5	23.2	27.0	23.4	11.1	2.4	100.0
計	患者数	487	1,351	5,888	13,450	20,169	22,307	11,943	2,117	77,712
	%	0.6	1.7	7.6	17.3	26.0	28.7	15.4	2.7	100.0

## がん患者 県別分布数

(昭和39年12月～平成23年12月)



## レジデント履修状況

区分	総数	消化器内科 コース	呼吸器内科 コース	腫瘍内科・血液内科 コース	頭頸部外科 コース	胸部外科・乳腺科 コース	消化器外科 コース	婦人科・泌尿器・ 整形外科・形成外科 コース	放射線診断 コース	放射線治療 コース	遺伝子病理 診断コース	麻 酔 科 コ ー ス
61~21年度	866	75	51	28	77	106	104	43	74	287	19	2
22年度	38	4	—	5	4	9	6	2	4	3	1	—
23年度	38	6	1	4	4	8	6	2	3	2	2	—
24年度	42	5	1	8	6	8	6	2	2	1	3	—
総数	984	90	53	45	91	131	122	49	83	293	25	2

## リサーチレジデント履修状況

区 分	総 数	疫学・予防学 コース	腫瘍病理学 コース	分子腫瘍学 コース	遺伝子医療研究 コース	腫瘍免疫学 コース	分子病態学 コース	腫瘍ウイルス学 コース	発がん制御研究 コース	臨床研究基礎 コース
13~21年度	72	4	9	4	7	8	8	13	12	7
22年度	9	1	1	1	2	1	1	1	1	—
23年度	13	2	1	1	2	2	—	2	3	—
24年度	11	2	1	3	1	2	—	1	1	—
総 数	105	9	12	9	12	13	9	17	17	7

## 医療技術者研修受入れ状況

区 分	総 数	41~19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
総 数	5,292	4,824	132	105	85	65	81
医 師	3,346	3,061	63	59	70	42	51
診 療 放 射 線 技 師	224	222	0	1	0	1	0
臨 床 ( 衛 生 ) 検 査 技 師	575	540	13	8	4	3	7
看 護 師	298	284	4	2	1	3	4
そ の 他	849	717	52	35	10	16	19

## 図書蔵書状況 (受入数-除籍数=総数)

年度	種類	総 数	単 行 本		専 門 雑 誌	
			洋	和	洋	和
40~21年度受入れ		65,906	11,493	15,745	28,242	10,426
22年度々		1,306	151	976	26	153
23年度々		1,311	88	741	34	448
24年度々		924	55	569	40	260
除 籍 累 計		12,681	3,141	3,529	4,734	1,277
総 数		56,766	8,646	14,502	23,608	10,010

# 主な備品・設備

## 備 品 (平成25年4月1日現在)

品 名	取得年度	型 式	数量	設置場所
心電図自動解析装置	平成3年度	F C P-800 フクダ電子	1	血液・細胞療法部
自動化学分析装置	平成23年度	La b p e c t 008 (タイプ1)	1	生化学検査室
診断用X線装置 ※	昭和61年度	KXO850 東芝	1	放射線診断・IVR部
X線TV装置	平成3年度	DB W-220A型 東芝	1	放射線診断・IVR部
放射線モニタリングシステム	平成3年度	MS R-500 アロカ	1	放射線診断・IVR部
多方向X線撮影装置 ※	平成3年度	VS-20 島津	1	放射線診断・IVR部
超高速再構成演算装置	平成8年度	東芝 C T透視モード	1	放射線診断・IVR部
デジタル画像処理装置 ※	平成10年度	DE P-2000A/ ㊦ 東芝メディカル	1	放射線診断・IVR部
全身用X線コンピュータ断層撮影装置	平成17年度	Aq u i o n 32	1	放射線診断・IVR部
アンギオC Tシステム	平成19年度	Aquilion LB/INFX-8000C 東芝メディカルシステムズ	1	放射線診断・IVR部
磁気共鳴断層撮影装置	平成20年度	G E 横河メディカルシステム S i g n i D x 3.0T	1	放射線診断・IVR部
C アーム型X線テレビシステム	平成21年度	ULTI M X-I	1	放射線診断・IVR部
モニター読影入力システム	平成22年度	富士フィルムメディカル 放射線読影レポートシステム F-Report	1	放射線診断・IVR部
据置型デジタル式汎用X線撮影装置	平成22年度	富士フィルムメディカル FUJIFILM DR BENE0	1	放射線診断・IVR部
据置型デジタル式汎用X線透視診断装置	平成22年度	日立メディコ C U R E V S A T	1	放射線診断・IVR部
全身用X線C T診断装置	平成24年度	Aq u i o n P R I M 東芝	1	放射線診断・IVR部
2検出器可変型ガンマカメラシステム	平成24年度	I n f a r i a w e y e G E 社	1	放射線診断・IVR部
放射線治療管理装置 ※	平成元年度	A C C R S D 日本電気	1	放射線治療部
遠隔操作式腔内治療装置	平成12年度	マイクロセレクトロンHDRシステム ニュークレトン社	1	放射線治療部
医療用リニアック ※	平成15年度	CLINAC-21EX バリアンメディカルシステムズ	1	放射線治療部
医療用リニアックセラレータ	平成17年度	H i - A R T システム・T o m o T h e a r p y	1	放射線治療部
医療用リニアック	平成23年度	エレクタ製 S y n g e y r	1	放射線治療部
小線源確認写真撮影装置	平成19年度	C v s i o n I R U S 島津製作所	1	放射線治療部
放射線治療位置決め装置	平成19年度	LX-40A 東芝メディカルシステムズ	1	放射線治療部
放射線治療情報システム	平成23年度	エレクタ製 M O S A Q O I S	1	放射線治療部
FPD搭載Cアーム型デジタルX線テレビシステム	平成24年度	U l t i m a x - i 東芝	1	内視鏡部
自動カート洗浄装置 ※	平成3年度	C W R - 2500W サクラ精機	1	中材事務室
集中患者監視システム	平成3年度	C B N-3000C M特型 コーリン電子	1	手術室
手術室内I T Vシステム ※	平成3年度	特型 ソニー	1	手術室
手術画像記録システム ※	平成4年度	特型 ナック	1	手術室
薬袋印字システム ※	平成5年度	T Y S - 4 B 2特型 トーショー	1	薬剤調剤室
カルテ保管庫 ※	平成5年度	カルテ管理システム 日本ファイリング	1	診療録管理室
医局システム机 ※	平成3年度	特型 ソニー	1	医局
共焦点レーザー顕微鏡	平成18年度	L S M 10 M A T E - A C C カールツァイス	1	発がん制御研究部
動物飼育設備	平成11年度	ダイダマン	1	中央実験室
放射線管理総合システム	平成21年度	MS R 3000 アロカ	1	中央実験室
質量分析システム	平成22年度	エービー・サイエックス製4800 Plus MALDI TOF/TOF Analyzer	1	研究所
中央実験台等 ※	平成11年度	イトーキ	1	共通実験室

(注) ※印の備品は、年金積立金還元融資を受けて購入

## 附属設備 (平成25年4月1日現在)

設備名	設 備 機 械	数量	設備名	設 備 機 械	数量	設備名	設 備 機 械	数量
空 気 換 気 設 備	冷 凍 機	4	電 気 設 備	特高受電用変圧器	2	医 療 ガ ス 設 備	液体酸素貯蔵タンク	1
	ヒートポンプチラー	4		高圧配電用変圧器	47		真空ポンプ(吸引用)	4
	ボ イ ラ ー	2		発 電 機	4		液体窒素貯蔵タンク	1
	貫流ボイラー	3		電 話 交 換 機	1		純正空気用混合器	1
	冷温水発生器	5		昇 降 機	20			
	空 調 機	115						
	送 排 風 機	203						

# 病院業務 (平成25年4月1日現在)

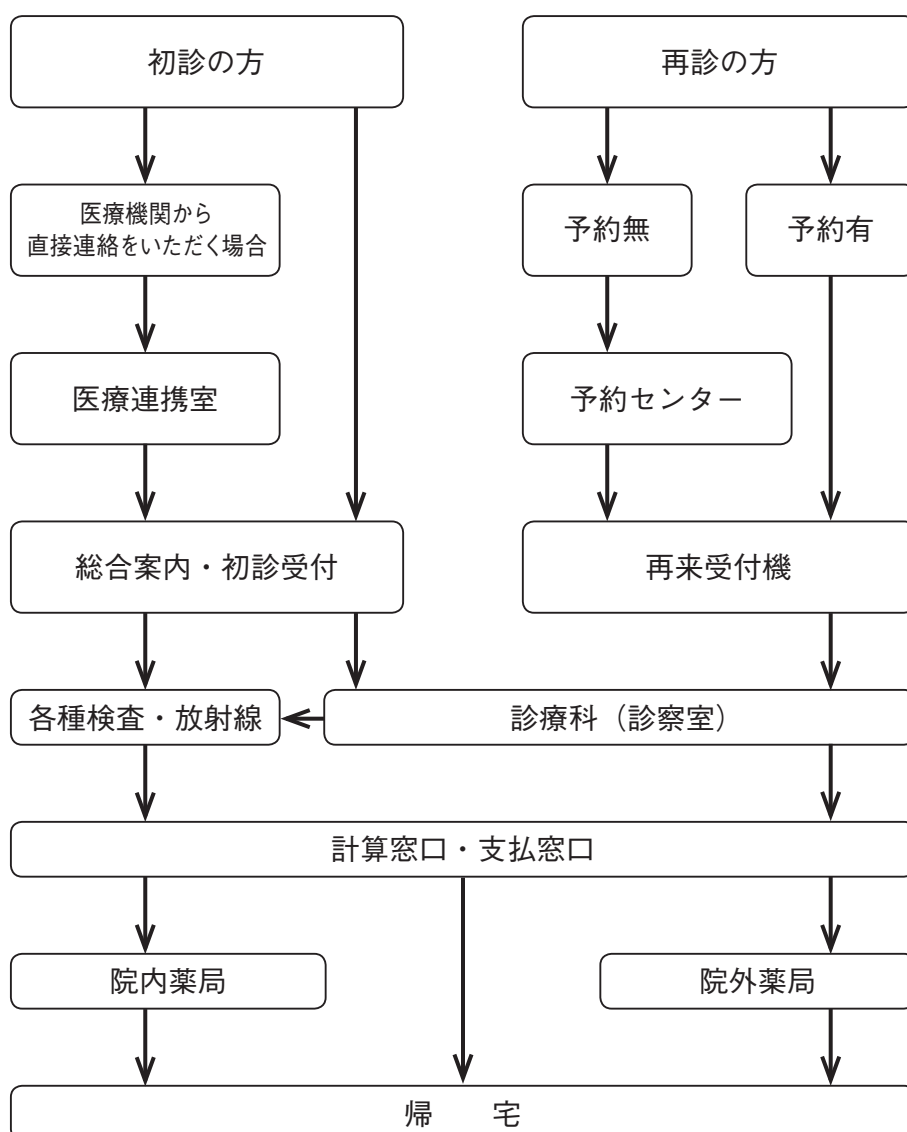
## 中央病院の特色

- (1) がんに対する診断・治療と研究が一体となった理想的な基幹病院とする。
- (2) 手術・放射線・臨床検査・化学療法部門の機能を一体化し、集学化を図る。
- (3) 国内外の医療関係者との技術交流を行い、医学の国際交流を推進する。
- (4) 先進医療実施病院として、常に高度な治療を目指す。
- (5) 都道府県がん診療連携拠点病院として、本県の中心的ながん診療機能を担うとともに、医療従事者の研修、地域がん診療連携拠点病院の支援を行う。

**診療科目** 消化器内科、呼吸器内科、血液内科、薬物療法内科、臨床検査科、病理診断科、循環器内科、頭頸部外科、形成外科、呼吸器外科、乳腺科、消化器外科、整形外科、泌尿器科、皮膚科、婦人科、麻酔科、放射線診断科、放射線治療科、脳神経外科、眼科、歯科、緩和ケア内科 計23診療科

**病床数** 500床

## 外来診療の流れ



## 外来患者状況

区 分	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
診 療 日 数	243	242	243	244	245
初 診 患 者 数	6,697	6,193	5,557	5,481	5,548
患 者 延 数	153,514	154,001	149,769	149,626	150,654
1日平均患者数	631.7	636.4	616.3	613.8	614.9
平均通院回数	22.9	24.9	27.0	27.3	27.2
紹介患者比率	76.9	78.9	80.9	84.2	87.1
外来化学療法件数 <sup>(注)</sup>	16,924	20,577	19,452	20,817	21,011

(注) 平成20年度以降、治験件数を含む。

## 入院患者状況

区 分	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	
患者総数	総 数	9,936	10,175	10,020	9,920	9,475
	繰 越	375	375	396	402	325
	新入院	9,561	9,800	9,624	9,518	9,150
退院患者数	総 数	9,561	9,789	9,594	9,611	9,456
	死 亡	429	442	455	470	395
	その他	9,132	9,347	9,139	9,141	9,061
患 者 延 数	152,710	154,884	154,352	150,036	149,650	
1日平均患者数	418.4	424.3	422.9	409.9	410.0	
平均在院日数	15.0	14.8	15.1	14.7	14.8	
病床利用率	88.5	89.7	89.4	86.7	86.7	
病床回転率	24.3	24.7	22.7	23.3	21.2	
死 亡 率	4.5	4.5	4.7	4.9	4.2	

## 住所地別患者数

区 分	住 所 地	21年度		22年度		23年度		24年度	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
外 来 初 診 数	愛 知 県	4,774	77.1	4,229	76.1	4,171	76.1	4,205	75.8
	名古屋市	2,441	39.4	2,256	40.6	2,203	40.2	2,125	38.3
	その他	2,333	37.7	1,973	35.5	1,967	35.9	2,080	37.5
	県 外	1,419	22.9	1,328	23.9	1,310	23.9	1,343	24.2
	総 数	6,193	100.0	5,557	100.0	5,481	100.0	5,548	100.0
新 入 者 院 数	愛 知 県	7,312	74.6	7,247	75.3	7,024	73.8	6,735	71.1
	名古屋市	3,278	33.4	3,479	36.1	3,350	35.2	3,358	35.4
	その他	4,034	41.2	3,768	39.2	3,674	38.6	3,377	35.7
	県 外	2,488	25.4	2,377	24.7	2,494	26.2	2,740	28.9
	総 数	9,800	100.0	9,624	100.0	9,518	100.0	9,475	100.0

## 患者給食実施状況

区 分	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	
入院患者延数	152,710	154,884	154,352	150,036	149,650	
給食数 (配膳延人数)	総数	111,096	115,668	121,252	116,994	125,746
	一般食	93,617	97,493	101,263	93,428	89,836
	特別食	17,479	18,175	19,989	23,566	35,910
給食率	72.7	74.7	78.6	78.0	84.0	

## 放射線照射回数（診断—直接撮影件数）

区 分	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
総数	45,778	46,299	45,001	44,232	44,832
単純撮影	39,820	40,378	39,035	38,309	38,776
造影撮影	5,015	4,979	4,988	4,787	4,844
特殊撮影	943	942	978	1,136	1,212

## アイソトープ検査件数

区 分	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
総数	1,332	1,235	1,159	1,052	1,060
シンチスキャン	1,030	935	840	721	714
センチネルリンパ	292	285	308	327	337
動態計測	10	15	11	4	9

(注) センチネルリンパ節の検査は平成17年度より始めた。

## コンピュータ断層撮影（CT）件数

区 分	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
総件数	14,406	14,870	14,861	15,294	16,020

## 超音波断層撮影件数

区 分	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	
総数	5,933	5,009	3,595	3,621	3,337	
部位別	甲状腺	806	948	588	659	311
	乳腺	1,375	836	775	682	619
	腹部	1,674	1,721	1,681	1,886	2,141
	その他	2,078	1,504	551	394	266

(注) 放射線診断部・IVR部 超音波検査室における超音波検査件数。  
 診察室における超音波検査件数は各診療科検査実績参照。  
 (平成21年度までは全て超音波検査室で実施)

## MR I 件数

区 分	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
総 数	2,948	3,424	3,577	3,610	3,887

## 放射線照射回数（治療）

区 分	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	
総 数	55,302	59,864	60,995	57,324	55,448	
放射線治療計画策定件数	1,434	1,382	1,384	1,402	1,240	
放射性物質	R A L S	80	85	95	58	52
	小 線 源	25	23	19	26	20
そ の 他	リ ニ ア ッ ク	52,454	57,114	58,320	54,732	53,093
	C T	1,083	1,067	981	902	960
	シミュレーター	226	193	196	204	83

## 一般臨床検査件数

区 分	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	
総 数	2,817,138	2,927,749	2,791,468	2,831,987	2,952,465	
尿 検 査	29,086	27,821	27,733	27,213	27,237	
糞 便 検 査	1,227	720	747	641	584	
血液学的検査	900,450	923,171	902,890	897,307	927,277	
生化学的検査	1,480,405	1,470,775	1,453,125	1,484,230	1,561,538	
細菌学的検査 （監視培養検査）	15,119 (708)	15,067 (662)	16,309 (905)	16,784 (1,008)	20,066 (996)	
血清学的検査 （アイソトープ使用検査）	181,853 (1,688)	190,445 (1,414)	193,101 (1,740)	203,495 ※(733)	212,646 0	
病理組織検査	8,845	8,389	8,303	8,484	8,549	
癌遺伝子検査	1,324	1,547	1,580	1,878	1,986	
細胞学的検査	8,619	7,568	7,345	7,267	7,117	
血液ガス検査	4,611	3,933	3,699	4,066	4,261	
その他	採血業務	181,894	176,977	173,633	177,366	178,132
	治験処理等	3,705	3,270	3,003	3,256	3,072

（注）（ ）内は再掲。

※平成23年9月よりR I検査中止→外注委託



## 機能検査件数

区 分	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
総 数	16,827	16,338	16,513	17,734	18,434
心 電 図 検 査	3,494	3,685	3,871	4,377	4,700
負 荷 心 電 図 検 査	2,026	1,908	1,864	1,876	1,927
トレッドミル検査	686	696	705	839	807
ホルター心電図検査	412	359	381	412	267
心臓超音波検査	2,071	2,041	2,221	2,446	2,721
肺機能検査	6,736	6,645	6,569	6,868	7,139
ピロリ菌呼気試験	65	84	81	89	67
聴 力 検 査	76	119	102	162	177
眼 科 検 査	0	0	0	0	0
乳腺超音波検査	1,259	796	719	665	629
骨塩定量検査	1	0	0	0	0
そ の 他 検 査	1	5	0	0	0

(注) その他の検査はベクトル心電図検査、心音図検査、心拍量検査、脳波検査を含む。  
(注) 眼科検査は、以前実施していた検査を看護師が実施することになり、著減しました。

## 部門別検査件数（県立病院統一件数）

区 分	22年度			23年度			24年度		
	総件数	院内件数	外注件数	総件数	院内件数	外注件数	総件数	院内件数	外注件数
総 数	2,721,412	2,706,271	15,141	2,780,884	2,760,628	20,256	2,887,743	2,866,596	21,147
一般検査	117,861	117,842	19	115,536	115,514	22	116,962	116,920	42
血液検査	624,644	623,855	789	626,175	625,269	906	642,082	641,169	913
免疫血清検査	102,311	97,530	4,781	104,643	98,494	6,149	113,895	109,033	4,862
生化学検査	1,560,523	1,551,793	8,730	1,607,765	1,595,837	11,928	1,678,754	1,664,662	14,092
微生物検査	32,027	31,286	741	32,875	31,713	1,162	40,054	38,883	1,171
病理細胞診検査	90,571	90,571	0	95,179	95,179	0	96,688	96,688	0
生理検査	16,513	16,432	81	17,735	17,646	89	18,434	18,367	67
その他の検査	176,962	176,962	0	180,976	180,976	0	180,874	180,874	0

(注) 愛知県立病院での統一件数集計方式による。

(注) 病理細胞診検査については、①②の理由により減少しました。

①写真撮影のデジタル化により、前年度以前との正確な比較が不能となったため、写真撮影枚数を加えなくなった。

②新システム導入により、手術件数の積算方法が変わった。

## 内視鏡検査件数

区 分	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
総 数	9,217	9,000	8,849	8,835	8,986
上 部 消 化 管	5,012	4,779	4,820	4,995	5,034
下 部 消 化 管	2,643	2,800	2,627	2,246	2,191
気 管 支	162	151	159	177	162
膵胆管造影 (E R C)P	377	415	422	407	497
超音波内視鏡 (E US)	736	583	555	694	759
超音波内視鏡下穿刺生検 (E U S - F B N A B)	287	272	266	316	343

## 内視鏡治療件数

区 分	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
総 数	842	905	913	1,010	1,043
食 道 E M R	44	44	61	48	64
胃 E M R	83	91	82	92	93
大腸EMR、ポリペク	315	355	302	359	347
食道狭窄拡張術	213	203	218	285	250
胆道ステント留置術	131	166	183	139	153
乳頭切開術、胆道碎石術	56	46	67	87	136

## 手術件数

区 分	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
総 数	2,761	2,663	2,637	2,720	2,750
頭 頸 部 系	462	477	438	517	506
胸 部 系	786	766	774	719	752
消 化 器 系	805	703	735	802	812
婦 人 科 系	304	310	300	273	320
泌 尿 器 系	186	191	175	165	163
そ の 他	218	216	215	244	197

※各年度、手術室で実施した全手術件数で、外来手術は含まない。

## 主な部位別手術症例数・特殊治療件数

部 位	22年度	23年度	24年度	部 位	22年度	23年度	24年度	
頭 頸 部 が ん	406	455	439	子 宮 が ん	頸がん	136	122	132
食 道 が ん	53	71	67		体がん	54	54	41
肺 が ん	199	204	192	卵 巢 が ん		51	32	45
乳 が ん	373	405	445	前 立 腺 が ん		49	42	36
胃 が ん	221	211	212	悪 性 骨 軟 部 腫 瘍		44	47	34
大 腸 が ん	332	350	328	I V R		1,989	1,828	1,889
肝 ・ 胆 が ん	82	77	64	造 血 幹 細 胞 移 植	同 種	7	4	1
膵 臓 が ん	58	59	68		自 家	10	11	8

※がんの部位別手術症例数は、各診療科保有のデータによる。

## 薬剤業務状況

区 分		20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	
		総 数	総 数	総 数	総 数	総 数	
処 方	枚 数	総 数	77,728	75,118	75,173	76,266	79,640
		外 来	11,213	9,211	8,574	9,358	9,113
		入 院	66,515	65,907	66,599	66,908	70,527
方	剤 数	総 数	138,711	135,593	137,542	140,961	149,509
		外 来	24,442	21,882	19,499	21,893	22,914
		入 院	114,269	113,711	118,043	119,068	126,595
	延 剤 数	総 数	1,435,099	1,374,632	1,086,309	1,134,997	1,202,562
		外 来	466,497	399,375	292,969	343,264	365,789
		入 院	968,602	975,257	793,340	791,733	836,773
治 験 処 方 枚 数		総 数	954	836	1,002	846	733
		外 来	816	779	859	810	710
		入 院	138	57	143	36	23
注 射	枚 数 (患者人数)	総 数	104,148	110,407	104,899	106,864	109,355
		外 来	21,485	22,239	22,330	24,094	25,602
		入 院	82,663	88,168	82,569	82,770	83,753
射	剤 数	総 数	494,874	519,211	478,858	502,783	519,482
		外 来	64,337	68,023	64,344	70,652	77,389
		入 院	430,537	451,188	414,514	432,131	442,093
薬 剤 管 理 指 導 数		人 数	2,605	1,912	2,397	2,805	4,535
		算 定 件 数	3,002	2,018	2,640	3,142	5,574
* 1	外 来 抗 がん 剤 調 製 数	件 数 (患 者 数)	11,034	14,475	14,453	15,510	16,632
		剤 数	17,262	22,766	21,888	24,058	25,722
* 2	外 来 抗 がん 剤 調 製 数 (治 験)	件 数 (患 者 数)	712	1,315	685	1,220	1,112
		剤 数	1,123	1,706	888	1,695	1,581
* 3	入 院 抗 がん 剤 調 製 数 (治 験 を 含 む)	件 数 (患 者 数)	50	2,351	8,844	9,189	9,355
		剤 数	115	3,286	11,866	12,536	12,477
麻 薬 処 方 せ ん 枚 数			5,884	6,916	8,237	7,590	8,405
麻 薬 注 射 せ ん 枚 数			12,345	13,232	16,107	19,086	18,901
T D M 実 施 件 数			93	59	62	89	110

\* 1 外来抗がん剤調製数は、薬剤師が調製した分のみを計上

\* 2 外来抗がん剤調製数（治験）は、薬剤師が調製した分のみを計上（平成19年度から集計）

\* 3 入院抗がん剤調製数（治験を含む）は、薬剤師が調製した分のみを計上（平成20年度から集計）

## 院外処方せん交付状況（平成24年度）

区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
処 方 せ ん 総 枚 数	3,928	3,995	3,830	4,155	4,205	3,861	4,378	4,315	4,083	3,944	3,837	3,860	48,391
院 内 処 方 せ ん 枚 数 (外 来)	761	776	751	822	831	777	886	847	815	701	571	575	9,113
院 外 処 方 せ ん 枚 数	3,167	3,219	3,079	3,333	3,374	3,084	3,492	3,468	3,268	3,243	3,266	3,285	39,278
比 率 $\left(\frac{\text{院外処方せん枚数}}{\text{処方せん総枚数}}\right) \%$	80.6	80.6	80.4	80.2	80.2	79.9	79.8	80.4	80.0	82.2	85.1	85.1	81.2

平成9年12月2日からオーダリングシステムによる院外処方せんの交付を開始し、平成10年8月から原則的に全面交付

## 血液使用状況

### 1. 血液使用量

(単位)

区 分	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
自 己 血 液	431	385	325	288	312
全 血 液	0	0	0	0	0
赤 血 球 製 剤	16	2	16	58	24
赤 血 球 濃 厚 液	4,900	5,578	5,396	5,590	5,032
凍 結 血 漿	754	934	684	1,259	1,324
血 小 板	15,980	16,565	15,395	13,100	14,090
そ の 他	0	0	0	0	0

### 2. 検査件数

(単位：件)

区 分	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
ク ロ ス マ ッ チ	2,903	3,425	3,195	3,299	2,938
血 液 型 ( A B O )	3,309	3,314	3,554	3,656	3,692
R H 因 子	3,309	3,314	3,554	3,656	3,692
間 接 ク ー ム ス 試 験	8,827	9,616	9,198	9,576	9,124
抗 体 ス ク リ ー ニ ン グ	5,913	6,181	5,981	6,259	6,162
直 接 ク ー ム ス 試 験	12	17	27	19	23

(注)・全血製剤は血液200mlを1単位、成分製剤は血液200mlに由来する成分を1単位とする。

・直接クーモス試験は平成9年度より、臨床検査部から血液管理部へ移管。

## 治験等実施件数

区 分	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
治 験	65	90	108	117	120
製 造 販 売 後 臨 床 試 験	13	13	16	13	11
製 販 後 使 用 成 績 調 査	40	39	32	31	28
そ の 他	7	9	2	2	3
合 計	125	151	158	163	162
( 新 規 依 頼 分 )	(61)	(60)	(47)	(44)	(39)
医 師 主 導 治 験	2	2	2	5	7

## 臨床試験実施件数

区 分	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
登 録 中 の 臨 床 試 験	22	37	42	53	59
う ち 先 進 医 療 B に 基 づ く も の	0	0	0	0	3
追 跡 調 査 中 の 臨 床 試 験	36	29	36	51	47
合 計	58	66	78	104	109

## 死体解剖数

区 分	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
死 亡 患 者 数	429	442	455	470	395
解 剖 数	9	11	5	17	6
解 剖 率	2.1	2.2	1.1	3.6	1.5

# 研究業務

愛知県がんセンターにおいては、がん患者の診断治療を行うのみならず、がんの研究機関としての研究業務も設置目的に含まれており、病院部門における臨床医学的研究と研究所部門における基礎医学的研究と相まって、当センターの機能を発揮しているが、その研究態勢は、

- (1) 研究所における部別研究
- (2) 病院における課題別研究
- (3) 病院・研究所両部門による共同研究
- (4) プロジェクト研究

の4態勢で実施されている。平成25年度における研究課題は、次のとおりである。

## 研究所における部別研究課題

- |          |   |
|----------|---|
| 疫学・予防部   | <ol style="list-style-type: none"><li>1 がん対策の企画・評価に必要な地域がん登録の資料を活用した、がんの流行と転帰の分析研究</li><li>2 がんの環境要因、宿主要因、および両者の交互作用を解明するための病院疫学研究</li><li>3 「健康日本21あいち」に基づく愛知県民のためのがん予防啓発技術の開発研究</li><li>4 がん治療の長期予後（効果）に影響する要因の分析</li></ol> |
| 腫瘍病理学部   | <ol style="list-style-type: none"><li>1 難治性がん（難治性消化器がん、呼吸器がん、血液系・神経系腫瘍など）の分子病理学的特徴解析の研究</li><li>2 難治性がんに対する分子治療学的技術開発の基盤研究</li><li>3 胃がん・大腸がん発生・増殖進展・転移の分子機序の研究</li><li>4 病理剖検症例の病理組織学的研究</li></ol>                           |
| 分子腫瘍学部   | <ol style="list-style-type: none"><li>1 肺がんの発症・進展機序の解明と分子標的療法の探索</li><li>2 中皮腫の発がん機序の解明と細胞生物学的研究</li><li>3 消化器がんの発症におけるエピジェネティクス関与の解明</li></ol>   |
| 遺伝子医療研究部 | <ol style="list-style-type: none"><li>1 造血器腫瘍発症機構の分子生物学的研究及び診断治療への応用</li><li>2 造血器細胞の分化、増殖に関与する遺伝子の血清学的、分子生物学的研究</li></ol>  |

- |          |  |
|----------|--|
| 腫瘍免疫学部   | <ul style="list-style-type: none"> <li>1 腫瘍抗原の免疫学的、分子生物学的検索</li> <li>2 免疫診断及び免疫治療の前臨床的及び臨床的研究</li> </ul>   |
| 腫瘍ウイルス学部 | <ul style="list-style-type: none"> <li>1 ヒトがんウイルスの増殖と宿主細胞応答の解析</li> <li>2 遺伝子組み換えウイルスを用いた発がん研究</li> </ul>  |
| 分子病態学部   | <ul style="list-style-type: none"> <li>1 マウスモデルを用いた大腸がんの発生・転移に寄与するシグナル経路と腫瘍微小環境の研究</li> <li>2 がん悪液質の病態生理解明と治療戦略の基盤構築</li> <li>3 遺伝子改変による難治性がんマウスモデルの作出</li> </ul>                      |
| 発がん制御研究部 | <ul style="list-style-type: none"> <li>1 がん細胞周期における新規キナーゼカスケイド</li> <li>2 新しい中心体及び細胞間接着制御因子群の機能解析</li> <li>3 部位特異的リン酸化ペプチド抗体の進化</li> <li>4 がん細胞の細胞骨格・増殖にかかわる遺伝子の遺伝子改変マウスの作製</li> </ul> |
| 中央実験室    | <ul style="list-style-type: none"> <li>1 食道がん、頭頸部腫瘍の分子遺伝学的研究</li> </ul>  |

## 病院における課題別研究課題

- 1 がん治療におけるインターベンショナル・ラジオロジーの応用についての研究
- 2 治療感受性と再発リスクによる乳癌術後補助療法の選択に関する研究
- 3 臨床検査における各種癌診断手法の改善、開発
- 4 骨軟部肉腫進行例に対する治療法の研究
- 5 尿路生殖器癌の治療に関する臨床的研究
- 6 病理細胞診断における分子腫瘍診断法の研究
- 7 婦人性器癌における術前化学療法に関する臨床的研究
- 8 食道癌に対する術前化学療法に関する臨床研究
- 9 悪性リンパ腫の大量化学療法
- 10 癌患者におけるうつアセスメント用紙活用の確立
- 11 非小細胞肺癌の分子生物学的解析と臨床的意義
- 12 トモセラピーを用いた強度変調放射線治療の臨床応用

## 病院・研究所両部門による共同研究課題

- 1 肺癌、中皮腫細胞の解析と診断、治療法への応用
- 2 R T-PCR 法による腹腔内洗浄細胞診と術後成績からみた網膜切除の有用性に関する検討
- 3 消化器癌に対する超音波内視鏡下生検法の有用性の検討
- 4 機能温存を目指す頭頸部癌の外科治療

## プロジェクト研究課題

- 1 免疫療法の標的となる卵巣がん抗原の検索
- 2 悪液質の診断基準の確立を目指した予備研究
- 3 F IG -E T C DHD法とOS E 法による画像診断能力の検討
- 4 加齢性リンパ増殖性疾患の分子標的治療の確立を目指した病態解析

## 特許の状況

区 分		平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
発 明	件 数	4	6	7	6	2
登 録 件 数	年度当初	3	6	9	15	19
	新 規	3	3	6	4	6
	権 利 消 滅	0	0	0	0	0
	年 度 末	6	9	15	19	25
実施許諾件数	年度当初	6	6	7	6	5
	新 規	0	2	0	0	0
	満了・解約	0	1	1	1	1
	年 度 末	6	7	6	5	4

## 研究所欧文原著論文発表研究

(単位：編)

20年	21年	22年	23年	24年
111	113	109	99	109



## 類似病院との比較

項 目	愛知県	順位	埼玉県	千葉県	静岡県	兵庫県	宮城県	神奈川県	
	がんセンター中央病院		がんセンター	がんセンター	静岡がんセンター	がんセンター	がんセンター(独立行政法人)	がんセンター(独立行政法人)	
事業開始年月	S 3912.1		S 5011.1	S 4711.1	H14.6.24	S 595.22	S 424.1	S 384.15	
病床数	500	2	400	341	557	400	383	415	
稼働状況	病床利用率(%)	82.0	5	86.6	84.1	89.0	84.8	76.9	72.2
	平均在院日数(日)	14.7	4	14.9	13.1	13.7	15.1	18.5	14.3
	1日平均外来患者数(人)	613	5	779	571	955	621	302	664
収益状況	入院患者1人1日当たり診療収入(円)	51,321	6	53,671	56,805	57,703	52,727	46,999	59,791
	外来患者1人1日当たり診療収入(円)	29,591	4	22,180	32,099	30,655	32,306	25,010	22,650
繰入金の状況	1病床当たり一般会計繰入金額(千円)	5,523	2	6,066	8,017	11,059	2,625	5,598	5,847
	一般会計繰入金対経常収益(%)	16.9	2	17.3	20.2	24.4	8.1	23.1	18.7
経営状況	経常収支比率(%)	106.0	2	101.3	110.6	103.4	105.8	102.8	101.1
	医業収支比率(%)	95.3	4	85.8	89.6	83.4	99.6	106.1	100.9
	修正医業収支比率(%)	86.6	3	85.7	89.6	83.0	99.5	82.7	82.2
	職員給与費対医業収益(%)	47.4	5	56.1	52.1	42.7	46.6	46.5	46.3
	病床1床当たり実質損益(千円)	△ 3,503	2	△ 5,627	△ 4,206	△ 10,328	△ 858	△ 4,974	△ 5,752
	病床1床当たり純利益(△)純損失(千円)	2,019	2	439	3,811	731	1,767	623	96
	病床1床当たり概算キャッシュフロー発生額(千円)	3,719	3	2,940	5,590	5,103	2,585	2,425	1,693

注1 数値は「平成23年度地方公営企業決算の状況」から報告値を愛知県が独自に集計・分析したものから転記。

注2 「繰入金の状況」、「経営状況」は、研究所に係る数値を含む。

注3 指標の算式は次による。

・修正医業収支比率：(医業収益－医業収益中の他会計繰入金)／医業費用×100

・病床1床当たり実質損益：(純利益・(△)純損失－他会計繰入金)／許可病床数

・病床1床当たり概算キャッシュフロー：(純利益・(△)純損失＋減価償却費＋資産減耗費＋繰延勘定償却)／許可病床数

注4 左枠外に※印のある項目は、数値が小さい順となっている。

注5 分析の詳細は、愛知県病院事業庁のホームページの「事業報告」をご参照下さい。

## 外来診療案内

(平成25年4月1日現在)

◆ 受付時間 午前8時30分から午前11時30分まで

◆ 診療日 (土曜・日曜・祝日・年末年始は休診)

診療科	診療内容	診察日
消化器内科	消化器系統	月～金
呼吸器内科	呼吸器系統	月～金
循環器科	循環器疾患	月・木
血液・細胞療法科	造血器・その他	月～金
薬物療法科	造血器・その他	月～金
頭頸部外科	耳鼻咽喉・甲状腺	月～金
形成外科		月・火・水・木
呼吸器外科	肺疾患	火・水・木・金
乳腺科	乳腺疾患	月～金
消化器外科	消化器系統・食道疾患	月～金
整形外科	整形外科疾患	月・火・水・金
脳神経外科	脳神経疾患	火・水
泌尿器科	泌尿器疾患	月・水・金
婦人科	婦人科疾患	月～金
皮膚科	皮膚疾患	水
眼	眼科疾患	金
放射線診断・IVR科	放射線診断・その他	月・水・木・金
放射線治療科	放射線治療・その他	月～金
緩和ケア科	精神腫瘍科	月～金
	緩和ケア	月～金
	ペインクリニック	水
	リンパ浮腫	月
専門外来	禁煙外来	木

※1 セカンドオピニオン外来は、全科で対応しています。(完全予約制・自由診療)

※2 平成23年4月から胸部外科は呼吸器外科に名称変更し、食道疾患については、消化器外科対応となりました。

※3 精神腫瘍科及び禁煙外来は、予約のみの対応です。

## 入院案内

(平成25年4月1日現在)

### ◆ 入院の申込み

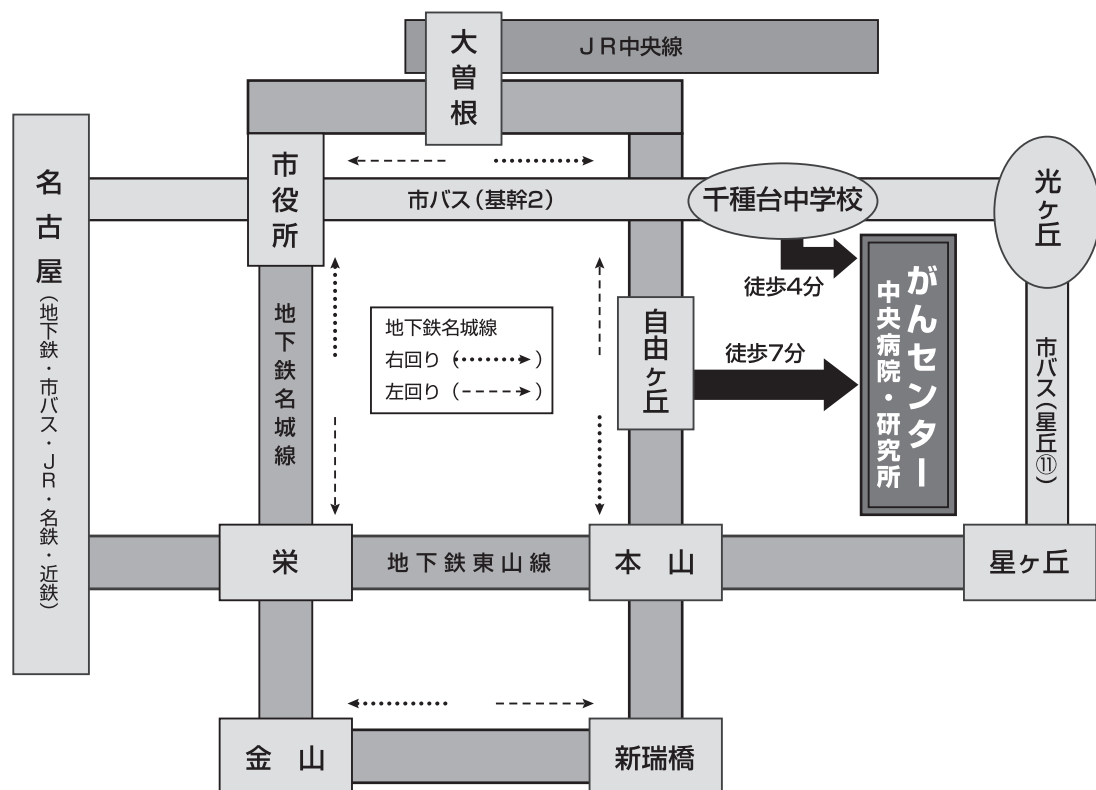
- 1 入院希望の方は、すべて外来患者として診察を受け、医師の指示により入院の申込みをしてください。
- 2 入院の申込みは、本人又は代理人の方が身元の確実な保証人及び連帯保証人を引受人としてお選びになり、所定の様式「入院申込書」「身元引受書」に記入して病棟1階入退院受付へ提出してください。
- 3 特別室(個室)に入院希望の方は、その旨を係員に申し出てください。  
なお、特別室(個室)を利用される方は、下表のとおり室料が必要となります。

区 分	A 室	B 室	C 室	D 室
室 料 (1日につき)	27,000円	13,000円	9,000円	7,000円

### ◆ 面 会

- 1 面会は、療養上の都合により次の時間内にお願ひします。ただし、病状その他の理由により面会できない場合があります。  
月曜日～金曜日 午後2時から午後8時まで  
土、日曜・祝日 午前10時から午後8時まで
- 2 面会の方は、次の事項をお守りください。
  - (1) 面会のときは、看護師に申し出てください。
  - (2) 面会は、他の患者さまに迷惑のかからないよう中央デールーム(面会室)をご利用ください。
  - (3) 病室内での飲食はご遠慮ください。
  - (4) 構内は禁煙になっています。
  - (5) 小さいお子様をお連れになった場合は、他の患者さまに迷惑のかからないようお願いいたします。

# 交通案内



## 地下鉄利用 「自由ヶ丘」2番出口から徒歩7分

- 名古屋・栄から【所要時間：名古屋から約30分】東山線「藤が丘」行き乗車、「本山」乗り換え、名城線「左回り」に乗車、「自由ヶ丘」下車
- 大曾根・栄から【所要時間：大曾根から約20分】名城線「右回り」行き乗車、「自由ヶ丘」下車
- 金山から 【所要時間：金山から約35分】名城線に乗車、「自由ヶ丘」下車

## 市バス利用 「千種台中学校」から徒歩4分

- 名古屋駅から【所要時間：名古屋駅から約40分】  
基幹2系統「光ヶ丘」または「猪高車庫」行き乗車、「千種台中学校」下車
- 星ヶ丘から 【所要時間：星ヶ丘から約20分】  
星丘11系統「地下鉄自由ヶ丘」行き乗車、「千種台中学校」下車

## 自家用車利用 本山交差点から北へ5分、平和公園の北西

- 東名高速道「名古屋IC」から西へ約15分  
名古屋ICより、名古屋長久手線（60号線）を西（星ヶ丘方面）へ2,600m進み、「打越」交差点を右折、1,600m先の「猪高車庫前」交差点を左折、1,000m先の「希望ヶ丘4」交差点を左折、300m先の左側
- 名古屋高速道「四谷出口」から北へ約10分  
四谷出口より800m先の「四谷通3」交差点を左折、北へ1,500m進み「猫洞通2」交差点を左折、1,300m先の「自由ヶ丘3」交差点を右折、400m先の右側

建物及び医療器機の一部について、年金積立金還元融資により整備しています。

**愛知県がんセンター中央病院・研究所概要  
平成25年度**

平成25年5月発行

発行所 愛知県がんセンター

名古屋市千種区鹿子殿1番1号

電話 052-762-6111 (〒464-8681)

Homepage: <http://www.pref.aichi.go.jp/cancer/>

印刷 株式会社カミヤマ

名古屋市西区那古野1丁目21番14号 (〒451-0042)

電話 052-565-1118 FAX 052-565-1054



愛知県がんセンター  
Aichi Cancer Center